

令和3年度 学校保健委員会 各種報告

1. 定期健康診断の結果

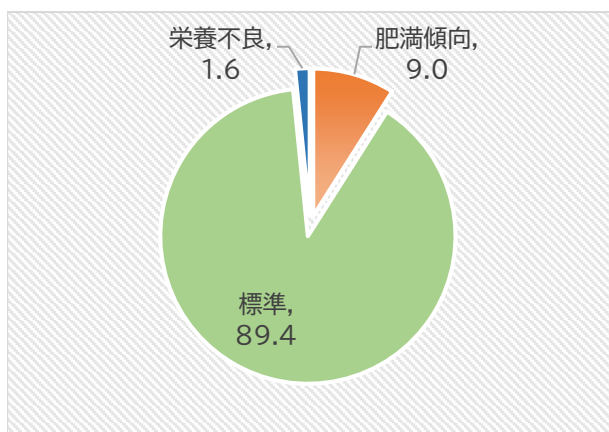
(1) 発育測定

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
男子身長 (cm)	117.7 【+0.7】	124.9 【+1.7】	129.9 【+1.3】	134.5 【+0.6】	140.7 【+0.9】	146.8 【+1.2】
男子体重 (kg)	22.2 【+0.6】	24.3 【-0.2】	27.4 【±0】	30.5 【-0.1】	36.2 【+1.3】	39.3 【+0.4】
女子身長 (cm)	116.4 【+0.3】	122.4 【+0.6】	127.4 【-0.2】	136.0 【+2.6】	140.4 【-0.2】	148.1 【+1.2】
女子体重 (kg)	21.2 【+0.2】	23.4 【±0】	25.9 【-0.6】	33.4 【+3.6】	33.0 【-1.3】	40.4 【+1.7】

都平均（令和元年度）と比較して、 赤：高い 緑：同じ程度 青：低い

※ 令和2年度は、休校の影響で測定時期の変更があったため、元年度と比較しています。

肥満度別グラフ（％）



昨年度は休校による影響が大きく、肥満傾向が増えました。今年度は、昨年度と比べて、肥満傾向が-1.4% 栄養不良が-0.2% と減りました。

区平均と比べると、栄養不良が+0.5%とやや多く、肥満傾向は-0.2%とほぼ同様の結果となっています。

柳澤内科校医コメント

コロナ禍が続く中で、昨年より肥満傾向は多少とも減少しています。

昨年度からの生活指導（バランスのとれた規則正しい生活・適度の運動）が功を奏していると思われます。引き続き、お願いします。

(2) 内科・運動器

<保健調査>

内科項目	今年度	前年度比
食物アレルギー	12.7%	+3.8%
アトピー性皮膚炎	9.0%	-2.9%
喘息	5.0%	-0.3%
その他の疾患	6.6%	+1.3%

食物アレルギーをもつ児童が全体の1割に上ります。

今年度も新型コロナウイルス感染症の流行状況から、受診を見合わせるケースが何件か見受けられました。

しかし、概ね定期的な受診により、適切な治療や生活の管理がされています。

運動器項目	今年度	前年度比
背骨が曲がっている	1.1%	+0.8%
しゃがむとふらつく 痛みがある	1.1%	-0.2%
歩き方に異常	0%	±0%
腕、脚の動きが悪い	0%	±0%

例年と比較し、大きな変化はありません。

項目にチェックがある児童は、検診にて問診・視診を行い、医療機関の受診が必要とされる場合は、整形外科を紹介しました。

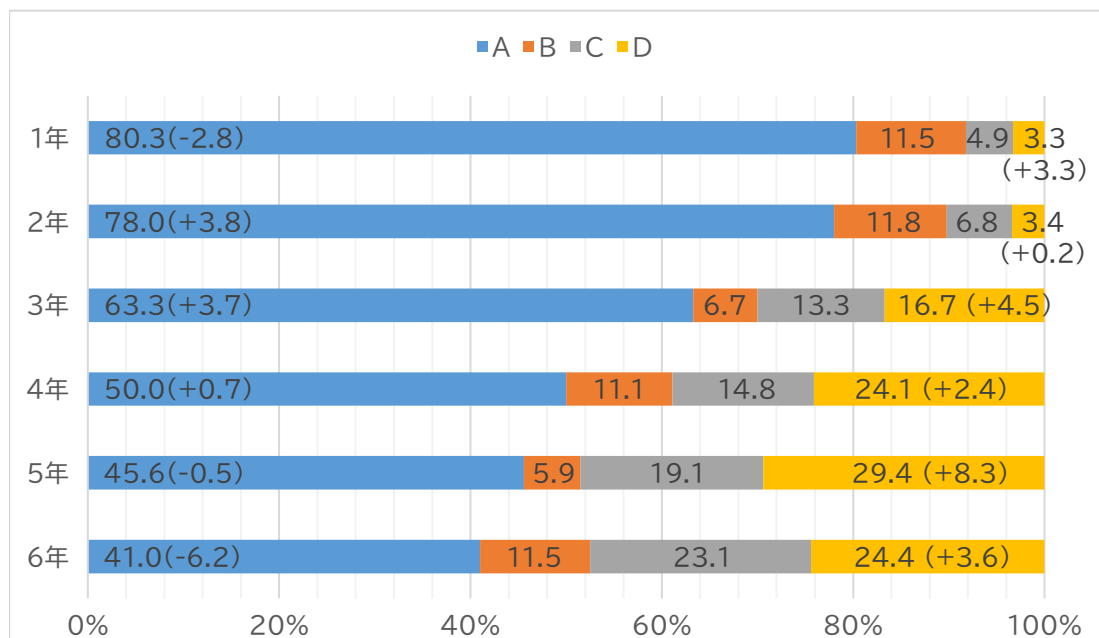
<内科・運動器検診>

アトピー性皮膚炎 0.3%

姿勢不良・側わん症疑い 0.3%

(3) 眼科

＜視力検査＞ 裸眼視力（左右で違う場合、見えづらい方を数えています。）



() は昨年度の同学年と比較した数値

視力は、昨年度も例年と比べて大きく低下がみられましたが、今年度もD判定の児童がさらに増加しました。都平均と比べると、1・2年生は視力が同程度かやや良い傾向、3～6年生の視力は低くなっています。

コロナ禍で外遊びの機会が減ったり、タブレットやテレビ等の画面を見る時間が増えたりしたことが、視力低下につながっている可能性があります。大きな健康課題の一つです。

＜眼科検診＞

項目	今年度	前年度比
アレルギー性結膜炎	0.3%	-0.5%
麦粒腫	0.3%	±0%
ドライアイの疑い	0.3%	+0.3%
眼瞼炎	0%	-0.5%

今年度も、数名に治療が必要な様子がみられました。

岡本眼科校医コメント

裸眼視力の低下が認められた時は、眼科にて矯正視力が1.0以上出るか、矯正視力を得るために必要なレンズが近視なのか、遠視なのか、乱視なのかを、きちんと調べる必要があります。

視力の発達は8歳から10歳までのため、発育に問題ないかどうかを必ずチェックしなければなりません。

検診時は、主として『目』の位置・動きや結膜の状態を診ます。治療が必要なお子さんはわずかでした。

(4) 耳鼻科

<保健調査>

項目	今年度	前年度比
アレルギー性鼻炎	13.4%	+0.5%

1割を超える児童が、ハウスダスト・花粉等によるアレルギー性鼻炎と診断されています。春・秋は、症状が出る子が多くいます。

<耳鼻科検診>

項目	今年度	前年度比
耳垢	2.4%	+1.6%
滲出性中耳炎	0.3%	+0.3%

今年度、耳垢の児童が増えました。しかし、ほとんどの児童に、治療が必要な様子はみられませんでした。

関耳鼻科校医コメント

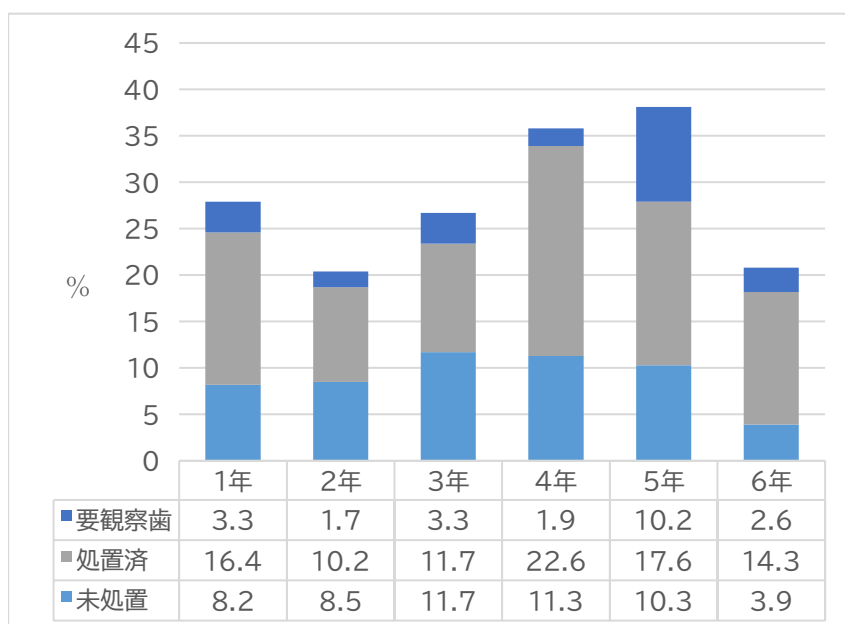
健康診断の結果については、問題ないと思います。

耳垢は、外耳道の表面からはがれたもの・外からのごみ等が、混ざったものです。耳垢がたまりやすいとしても、活発な分泌によるもので、病気ではありません。

耳垢には、カサカサした灰白色の乾型耳垢と、飴のようにベトベトして褐色の湿型耳垢があります。耳垢の型は、メンデル式遺伝（湿型が乾型に対して完全優性遺伝）をすることが分かっています。両親が乾型の場合、子どもは乾型ですが、片親が湿型である場合、子どもは湿型になります。男女による差異はありません。

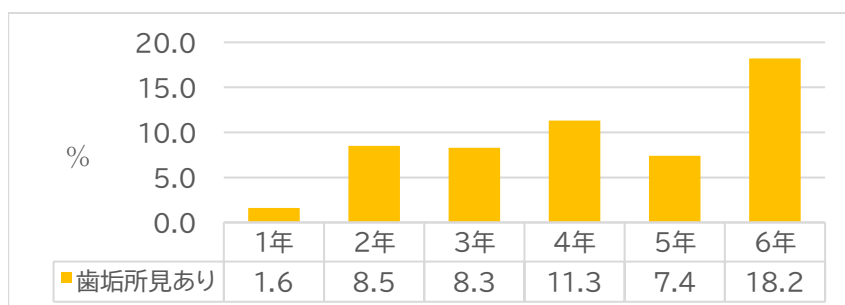
(5) 歯科

< 歯科検診 >



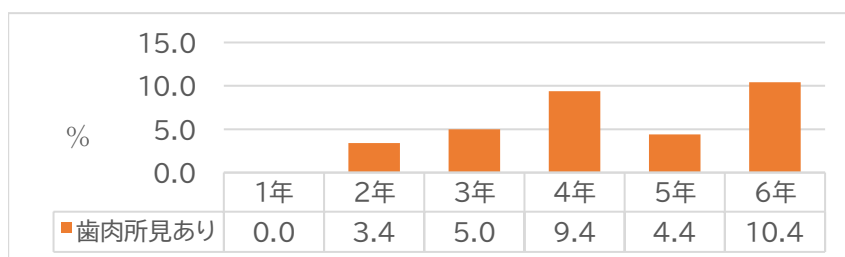
都平均と比べ、未処置の（むし歯を治療していない）児童は少ないです。昨年度と比較すると、未処置の割合は1年生で増え、2～6年生で減りました。

5年生の要観察歯の割合が大幅に増えています。また、DMF指数（永久歯むし歯）が4年女子で0.5と高く、丁寧な歯みがき、定期検診・治療が必要です。



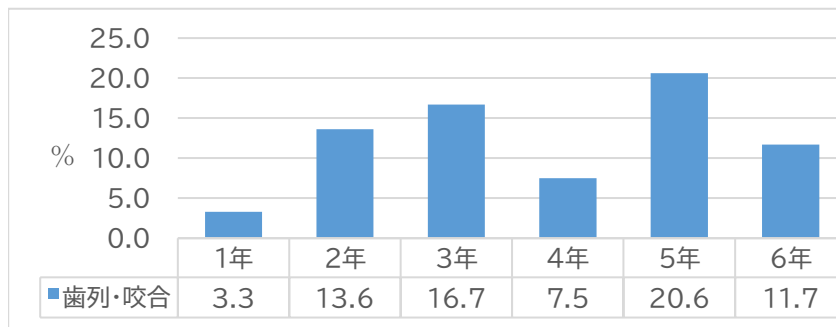
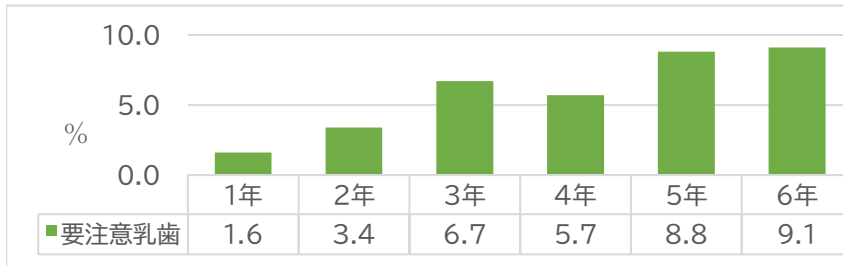
4・6年で、歯垢の所見が多くありました。

6年生のむし歯は少ないですが、歯みがきが不十分な児童が多くいることがわかりました。



歯肉の所見も、4・6年で多くみられました。

4年生は、3年生の時と比べると、歯垢・歯肉の所見が減っています。



要注意乳歯・歯列・咬合は、それぞれの状態に応じて医療機関の受診をすすめ、定期的にかかりつけ医・専門医で様子を診ていただいています。

昨年度は、感染症の状況により歯科医院の定期検診を見合わせたというケースが多くあったようです。今年度はいかがでしたか。自宅にいる時間が長くなると、間食の回数が増えたり、食事の時間が長くなったりしがちです。一方、生活が動き始めて習い事等が忙しくなると、つい歯みがきや定期検診が疎かになってしまうことがあります。歯を大切にするために必要な歯科医院の受診、ブラッシング・食習慣について、十分にできているか御家庭で話し合ってみてください。

梅澤歯科校医コメント

検診の結果だけ見ると、未処置の割合が6年生で少なくなっています。良い結果ではありますが、これは未処置だった乳歯が抜けて、割合が下がっているとも考えられます。実際、歯垢所見では6年生が一番高い割合を示していますので、安心せず丁寧に歯みがきをしましょう。